

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 香川県立観音寺総合高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒768-0068

香川県観音寺市天神町一丁目1-15

E-mail kansouh01@kagawa-edu.jp

Website www.kagawa-edu.jp/kansouh01/

幼児児童生徒数 男子 476 名 女子 372 名 合計 848 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「わたしたちにもできる、だれもが暮らしやすい地域づくり」を活動テーマとして、ESDをこれからの社会に生きる者に欠かすことのできない考え方と捉え、身近な課題を発見し、自らその解決策を探り活動するというESDの実践を通してよりよい社会づくりに貢献しようとする態度と能力の育成を目標とした。

具体的には、エコ・環境保護活動、国際理解・国際協力を柱に、①貧困・国際協力に係わる活動、②グローバルシチズンシップに係わる教育、③食育に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

① 貧困・国際協力に係わる活動

世界各地には貧困や安全な水にアクセスできないことで困っている人々がたくさんいることを知らせ、全校で1円玉募金を実施した。5月から12月まで校内で募金活動をするだけでなく、文化祭では来場者にも協力を呼びかけた。寄せられた2万円余の募金は年末にユニセフ緊急支援、日本赤十字海外たすけあい募金、フリー・ザ・チルドレンへ送金した。

② グローバルシチズンシップに係わる教育

総合学科 1 年次生を中心に（株）ユニクロの CSR 活動である「“届けよう、服のチカラ” プロジェクト」に参加した。地域の夏祭りで協力を呼びかけたり、市立図書館に回収箱を設置したりして合計 3, 7 2 4 点の子ども服を回収することができた。ニュース等では十分に理解できていなかった難民問題について考える機会になっただけでなく、海外に出かけなくても自分たちによる協力活動があることを実感した。

③ 食育に係わる学習

総合学科食物系列では「地産地消」を意識して地元食材を活用したメニュー開発に取り組んでいる。また栄養バランスのとれた食事を提供することは健康的な生活にもつながると考えている。本年度は、食物系列のランチ販売時に Table For Two の活動にも協力した。1 食あたり 2 0 円が開発途上国の給食支援に使われ、2 0 0 0 食余りを届けることができた。

④ 環境に係わる学習

校内ではごみの減量や環境保護を意識して様々なリサイクル活動を行っている。また「総合的な学習の時間」の取組で、環境問題をテーマに研究活動を行っている生徒もいる。たとえば総合学科 3 年次生の研究では、リサイクルのために洗浄後の PET ボトルキャップを効率的に乾燥させる方法を考え、古い自転車などを使って遠心力を利用した乾燥機を制作した生徒もいた。



① の写真（1 円玉募金）



② の写真（“届けよう、服のチカラ” プロジェクト）



③ の写真（ランチ販売）



④ の写真（キャップ乾燥機）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 放課後等)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

パンフレット ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育(ESD) (日本ユネスコ国内委員会 2016年1月改訂)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主として総合学科1年次生の「産業社会と人間」、2・3年次生の「総合的な学習の時間」の年間指導計画に位置付けている。指導内容や時間については、指導後の教員に対するアンケートと生徒観察や生徒の感想文で評価している。成果と課題は年度ごとにまとめ、次年度に引き継ぎ、改善に努めるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎年、入学生に対するオリエンテーションで、本校はユネスコスクールとしてESDに取り組んでいることを伝えることにしている。生徒のESD委員会を組織し、各種活動の中心となって取り組ませている。各クラスでの活動だけでなく、全校生徒への啓発活動や活動報告などもESD委員が行うこととしている。生徒の活動が増えるにつれ、教員の意識も高くなってきている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価の項目にESD（ユネスコスクールとしての活動）に関する項目を設けている。校内ではその内容や活動がほぼ理解されてきており、教員の意識も高くなってきている。しかし、保護者や校外の方にとってはESDという新しい考え方がまだ十分に理解されていないと思われる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ポスターを掲示したり、学校のホームページ等で知らせるようにしている。取組によっては、報道提供なども行っている。しかし、まだ十分とは言えず、30年度から、地域コミュニティに向けて、本校の取組やESD・SDGsを理解してもらえるような発信を工夫していこうと考えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地元漁連やJA、自治体等との協働にむけて、具体的な内容について計画しているところである。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

研究大会等で情報交換をすることはあるが、具体的な交流活動は行えていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域コミュニティや世界が抱えている課題に目を向ける生徒が増えてきている。課題に気づき解決策を探る活動を通して、自分たちに何ができるかを具体的に考え、すすんで活動できる生徒も増えてきている。生徒とともに活動することで教員の意識も変わってきている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ESDやSDGsの理解を深めるための学習時間を新たに設定する。そこで学んだことを校内や地域コミュニティで伝える活動を取り入れることにしている。さらに、SDGs達成のためにできる身近で具体的な活動に取り組みせ、その成果を伝える機会を設ける。少し意識して生活することで、だれもが変化を生み出していける具体例を伝え、多くの人に自分の生活を見直してもらおう機会にしたいと考えている。